

第2回 ワークショップ結果報告書

開催日：2013年8月24日（土）

時間：13時30分～16時30分

場所：鹿深ホール

綾野自治振興会

第2回 ワークショップ

2013・8・24

『綾野学区まちづくり協議会・まちづくり計画書の策定』について

★チームA

・地域の活性化プロジェクトの立ち上げ 年齢・性別・国籍を超えた居場所の交流



最低1年間の運営を実施する(すぐに閉店するのではなく長期スパンで行う)
閉店してしまっている商店街の空き家を利用し行政からの助成金を元に
再生を図る。(行政と市民との共同事業)

- ・地元の希望者を募り空き家を活かしカフェ(町屋風など)を運営をする。(働きき場所の提供)
自由に集まりコミュニケーションを図れる場所の提供
綾野エリア、甲賀市全体のイベントなどの情報収集が簡単に得られる状況にする。
地域共通券の発行(町の活性化に繋がる)
経営のモデルを作り全国に知られる町づくり→ベース作り
- ・ギャラリーを作る。
趣味などで作った作品や農作物など展示や販売をする。
(多くの人に知ってもらったり見てもらうことで生きがいにつながる)
- ・老人と子供の交流の場を設ける。
昔の水口の話やお年寄りから学ぶ暮らしの知恵、遊びなどを子供たちに教える。
独り身のお年寄りの生きがいにつながり、またコミュニケーションの苦手な現代っ子の社会交流の勉強に繋げる。(双方の年代にメリット有り)



世代間を超えた活動の場を作ることにより、高齢者への尊敬に繋がり
尚且つ若者が地域社会に参加できる機会をつくり町全体の活性化に
繋げる。

★チームB

・世代を超えた交流を持ち地域全体の活性化



- ・ラジオ体操 世代を超え集まり健康的に且つ交流を持つ。
- ・お祭り（太鼓・ゲームなどのイベント）
- ・ダンス・パフォーマンスなどの発表

若者を中心に実行委員会を開き積極的に意見を取り入れる。

大人の意見だけではなく子供の意見も取り入れる。（子供、若年層主体でもいいのでは・・・）

ワイワイフェスタを1回だけではなく実施する。

「若者の力が必要!!!」

・お年寄りが安心して暮らせる

・交通面の問題

公共交通機関の本数が少ないため車前提の社会となっている。

小回りが利くようにならないか？

マイカー前提の社会（必要な時に必要な数を確保してほしい）

・近所付き合いの活発化

お年寄りなど独居者の孤独化の回避（気軽に頼みあえる環境など）

気軽に頼める便利屋的存在

・多種多様のグループ(会)を作る。

- ・関心を持たせる。（参加のきっかけ作り、本来参加してほしい年代など）
世話役が生まれ活性化の波及効果を生む。
- ・何でもしてくれるような便利屋
- ・子供だけのワークショップがあっても面白い。

★チームC

・世代間交流が出来る場所の確保

・安心・安全の町づくり

高齢者社会の中で公共交通機関の充実さが欠けることにより
社会とのつながりが疎遠化しつつある。
教育のルール、自然がなくなってきた

道路の段差（歩道など）
治安問題
地域と密着する『良さ』

・高齢者が進んでやっていくこと！

ラジオ体操（健康促進・社会との交流など）
草引き（公共の場所…学校・公園など）
盆踊り

高齢者が元気！！

高齢者だけではなく様々な年代が参加し交流を図る。
幅広い年代が協力し合う事により子供達も興味を持ち次世代へと
繋げることができる。

蛍が見られるなど**活性化**

緊急時（地震やその他災害等）の対応

★今後の課題★

- ・公共交通機関の本数の確保（若者が遊びに行きやすい）
- ・道路の舗装（道路段差・歩道など）
- ・地域との密着（コミュニケーションを図る場の提供）
- ・学校（大学）が無い

★チームD

・住民が正確に且つ迅速に必要な情報を得る

- ・情報が豊かな町・働きやすい
歴史（宿場町・城下町・水口囃など）古き良き時代の水口文化の継承（高度経済成長期の水口町繁栄期を再び、干瓢料理など）昔の良いものを知り、残す。
- ・医療機関
救急時の対応
ホームドクターの充実
- ・教育・子育て面
核家族化が当たり前の時代
共働きが多く子供が淋しい思いをする→小学校低学年以外の支援（児童クラブなど）
昔のように他人の子供でもいけないことをしたときに叱れる環境
→見守りにつながる。
子供が元気で子供が多い町を目指す
朝ドラ『あまちゃん』のふるさとのような町にしたい。
- ・高齢者支援
敬老会の運営
独居での生活者への見守り（多方面にあたり不安をもっている）
年をとっても楽しく過ごしたい（買い物）
- ・交通機関
交通網の整備（車以外の交通など）
道路整備（歩行者・運転者・自転車）安心、安全、優しい環境
駐輪場の安全
道路がポコポコ

- 環境問題
 - 自然環境が守られている。
 - 環境（自然もあれば人工的）
 - 安全な町（事故、災害が少ない）
- 自治振興会
 - 意見を吸い上げる仕組み
 - 個人の思いを形になる仕組み
 - リーダー 途中で交代ではなく継続し続ける仕組み
 - 地域コミュニティの崩壊
- 情報を得る方法
 - 話をする（口コミなど）
 - 広報、会報「あやねっと」、ホームページなど
- どんな町にしたいのか？
 - 地元に残る 地場産業の発展

★チームE

・理想の水口の形とは？

- 地域防災の強化
- 子供と大人がコミュニケーションを取りあえる環境づくり
文化・伝統を理解する歴史を活かした町づくり
- 自然環境の良さを生かした町づくり
伝統文化を生かす町づくり
- 子供が多く外で遊べる町
- 横との繋がり、連絡コミュニケーション取る強化

★チームF

どんな水口（綾野）にしていきたいのか？

- ・人のあたたかさ

人と人のつながりがある。

歴史・自然がある（水口祭）

都会と田舎の良い所が程よく混在している。

時代の流れでの価値観の変動

- ・年を重ねていくことへの不安
- ・近隣、地域の人とのコミュニケーション→出会うことが少ない。
- ・助け合える、話しやすい関係が欲しい。
- ・子供たちは慣れていてアテにならない。
- ・近所の方が亡くなっても知らないことがある。
- ・若い人に住んでほしい→売り物件がない。あればすぐに売れる。
- ・新しい住民の方→町内入りしない。

受け入れ側が拒否する場合もある。

まだまだ保守的！？

- ・合併しての都市計画がストップ！！（道路のこと）
- ・土地を欲しがると
古い家そのまま使わず若夫婦が新しい家を建てる。
- ・地区のイベント
出てきてもらうキッカケ作りであるがなかなか参加に繋がらない。
- ・子供会の繋がりがあっても年寄りばかりのイベントは盛り上がらない。

地域の主役は若い世代→いつするのか？忙しい・・・

- ・女性も男性も時間帯（週末が休みとは限らない）が合わない。

活動してもらいたい若手年代の人員不足

家庭のこともままならない状況

負担が大きい

仕事、経済的に余裕があれば気にならない

気軽に意見を出せる仕組み（年配者の顔を伺いながら二の足を踏む）

- 婦人会、青年部会など世代別のキッカケ
- **子供**を中心にキッカケ作り
- 時間に余裕のある動ける世代（団塊世代など）にやってもらえると助かる
- 地域行事を減らして選別（厳選）するべき。

「出会い・繋がり・きっかけづくり」

- 若い人のアイデア→時間のある人の動くしくみ
- 『～があるからきてください』よりも**子供**中心に出てきて繋がってもらおう。
→ここからスタートさせる。



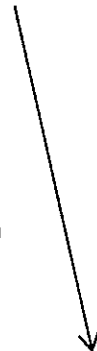
小・中学生の子を持つ親の年代(30-40代)

青年部会のような若い会合が必要！！！！



婦人会

子育てサロンなどキッカケになる（少しずつ広げる）



仕事をしていると活動できる時間帯が個々にバラバラ。